

未来を担う子どもたちのために
地域にとどけよう 笑顔と元気



第5回 B&G 全国指導者会 記念総会

2023年2月3日(金)・4日(土) 東京都中央区 ベルサール汐留

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

B&G 全国指導者会

目次・タイムスケジュール

- ・ B&G 財団 会長/B&G 全国指導者会 会長 挨拶 ……2
- ・ 議案① 正副会長他選任・各ブロック責任者紹介 ……3
- ・ 全国指導者会設立経緯 ……4
- ・ 全国指導者会活動報告 ……5
- ・ 議案② 新 活動方針・目標 ……7
- ・ 指導員褒章 ゴールド・シルバー・指導者会 ……11
- ・ 日本財団 会長褒章 ……13
- ・ 基調講演 女子バレーボール元日本代表 益子 直美 氏 資料
- ・ 研修講義①② 資料
- ・ 事例紹介 資料
- ・ B&G 財団事業紹介 子ども第三の居場所・偉人マンガ
- ・ 2022 年度 指導者養成研修報告・新活動方針・目標

2/3(金)		2/4(土)	
12:30	受付開始	8:30	受付開始
13:25	オープニングアクト 和太鼓 大元組	9:00	B&G財団 理事長あいさつ
13:30	開会 オープニング映像放映	9:10	指導員研修 講義① 桐蔭横浜大学大学院 スポーツ科学研究科コーチング講師 渋谷 崇行 氏 選手の「やる気」をいかにして高めるか引き出すか！
13:35	主催者挨拶 B&G財団 会長 前田 康吉 開会挨拶 全国指導者会 会長 工藤 祐直 来賓挨拶 日本財団 尾形理事長	10:25	指導員研修 講義② 株式会社食の学び舎くるみ 代表取締役 中野 ヤスコ氏 心とカラダを支える「スポーツ食育」のススメ
14:00	基調講演 女子バレーボール元日本代表 益子 直美 氏 監督が怒ってはいけない理由	11:40	事例発表 海洋ごみ清掃活動 香川県小豆島町 酒井 喬史氏 食品ロス削減活動 兵庫県豊岡市 柳田 洋輝氏 大分県由布市 生野 祥希氏
15:00	休憩	12:20	B&G財団 常務理事あいさつ
15:10	議案審議	12:25	事務連絡、終了
15:40	ブロック対抗 フィジカルテスト		
16:10	休憩		
16:20	日本財団 笹川会長褒賞 プレゼンター 日本財団 前田専務理事		
16:30	表彰 B&G指導員ゴールド褒賞 B&G指導員シルバー褒賞 B&G指導者会褒賞		
17:00	事務連絡		
17:10	1日目終了		

ご挨拶



公益財団法人
ブルーシー・アンド・
グリーンランド財団

会長 前田 康吉



B&G全国指導者会 会長
青森県南泊町長

工藤 祐直

第5回「B&G全国指導者会記念総会」へのご出席、誠にありがとうございます。

B&G指導員の皆さまには、日頃から、海洋センター・海洋クラブにおいて、青少年の健全育成、地域住民の健康づくりをはじめとする、B&G財団の諸事業に多大なるご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、「B&G全国指導者会」工藤会長をはじめ、各責任者の皆さまには、子どもたちへの自然体験機会の提供や指導者研修の実施など、当財団と連携した事業展開にご尽力いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症は、全国の社会経済活動に大きな影響を及ぼしております。当然ながら「海洋センター」「海洋クラブ」の活動も制限されましたが、皆さま方の今までの経験や知見・創意工夫、何より“未来を担う子どもたちのために”との熱い思いにより、可能な範囲で活動を継続いただき、今では感染症拡大前の利用者人数に戻ってまいりました。

今後も、適切な感染症対策を講じながら行動する必要がありますが、指導員の皆さまには、地域のため、住民のために引き続きのご尽力をお願いいたします。

B&G財団は本年3月、関係各位の永年のご理解とご協力により設立50周年を迎えます。

それに合わせ、先日開催しました「第15回B&G全国サミット」において、2023年度からの中長期計画を発表いたしました。

これからは、「地域社会の健全な発展」という大きな目標を財団の「定款」に明示し、地域課題の解決に向け、これまで以上に各種事業を推進してまいります。

目標達成のためには、全国指導者会をはじめ指導員一人一人のご理解、ご協力が必要不可欠です。

ぜひとも、今回の第5回記念総会におきまして、新たな目標や活動方針などを共有いただき、“更なる高み”に向け、ともに活動してまいります。

「第5回B&G全国指導者会記念総会」の開催にあたり、過去最高となる660名を超える全国のB&G指導員およびB&G地域指導者会の皆さまにご出席をいただくことができました。皆様方の熱い志と行動力に感謝申し上げます。

我々「B&G全国指導者会」は、“未来を担う子どもたちのために地域にとどけよう笑顔と元気”をビジョンに、水辺の自然体験活動と安全教育の実践を通じた地域社会への貢献活動を展開してきました。そして、現状の活動状況や今後の方針などを共有するため3年に一度、全国のB&G指導員が一堂に会する総会を開催してまいりました。我々の活動の節目となる第5回記念総会は、本来ならば昨年2月に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催を一年延期することとし、ようやく本日を迎えることができました。

コロナ禍における子どもたちの体力低下、海ごみに代表される自然環境問題、年々増加する食品廃棄など、地域の社会環境は目まぐるしく変化しています。今回の総会では、このような社会の変化に対応し、地域の社会貢献に寄与する新たな方向性と活動目標を示させていただきます。会員の皆さまには、B&G全国指導者会の一員としての自覚と誇りのもとに、変わらぬ情熱をもって、我々の目標とする重点事業に全力で取り組んでいただくとともに、地域での指導の担い手づくり、後進の方々へのノウハウ継承を含め、幅広く人材育成に注力いただければと思います。

今まで培ってきた経験とこれまでに築いてきた強固なネットワーク、連携力を活かし、地域の発展に貢献するために更なる歩みを進めてまいりましょう。

議案① 全国指導者会 役員選任

執行部(案)

役職	氏名	所属	研修期	写真
会長	工藤 祐直	青森県 南部町名川	第11期 センター育成士	
副会長	曾根 由多	静岡県 牧之原市相良	第14回 アドバンスト	
副会長	工藤 陽平	熊本県 湯前町	第12回 アドバンスト	
副会長	中島 博臣	B & G財団	第14回 アドバンスト	
東日本アドバイザー		西日本アドバイザー		
	川島 正光 埼玉県 久喜市栗橋/第19期センター育成士		金久 博 徳島県 阿南市/第7期センター育成士	

ブロック責任者

ブロック	氏名	氏名	氏名		
北海道	長尾 美和 北海道 大空町女満別 第3回センター・インストラクター		近畿	前谷 光直 兵庫県 南あわじ市南淡 第7回アドバンスト・インストラクター	
東北	清野 昭雄 福島県 小野町 第9回アドバンスト・インストラクター		中国	阿瀬川 文輝 島根県 浜田市三隅 第11回アドバンスト・インストラクター	
関東	林 登紀枝 群馬県 みなかみ町 第38期 センター育成士		四国	佐倉 亮 香川県 池田海洋クラブ 第17回アドバンスト・インストラクター	
北陸	飯田 史哉 福井県 大野市 第3回センター・インストラクター		北九州	中村 大悟 大分県 中津市耶馬溪 第11回アクア・インストラクター	
中部	増田 一樹 静岡県 掛川市 第15回アドバンスト・インストラクター		南九州	笠 健 熊本県 南阿蘇村白水 第11回アドバンスト・インストラクター	

全国指導者会設立経緯

B&G全国指導者会 誕生



経緯

2007年 海洋性レクリエーションの普及などが盛り込まれた「海洋基本法」が施行され、国をあげて、国民の海への理解を行うことなどが責務となりました。また、「教育基本法」の改正や政府による「青少年体験活動総合プラン」などの取り組みにより、青少年の健全な発育に対して、自然体験活動の重要性が高まりつつありました。しかし、四方を海に囲まれた日本では、2009年の水難者は1,905人、うち子供は396人であり、水の手事故への対策が喫緊の課題であった。



B&G全国指導者会 誕生



設立

2010年1月16日 B&G全国指導者会 設立

未来を担う子どもたちのために、「自然体験活動」と「水辺の安全教育」の推進に向けて、B&G指導員の力を集結し、新たな挑戦に歩みだしました。

当時17,000名の指導員を擁し、自治体とのネットワークを強固なものにしていたB&G財団は、水の手事故を防止し、水辺での自助意識を醸成する活動を全国展開を行っていくこととなった。

【設立趣旨】

B&G海洋センター・海洋クラブの活動を通じた地域の活性化と、青少年の成長に重要な「自然体験活動」と自助意識を養う「水辺の安全教育」などの推進により、未来を担う子どもたちの健全育成に貢献する。



全国指導者会活動報告

4か年の活動報告(2019年度～2022年度)



2019年度以降の目標(抜粋)

◆「海洋性レクリエーション」及び「水辺の安全教室」の実施

地域の自然フィールドや海洋センタープールにおいて、海洋性レクリエーションを年1回以上実施する

水辺での自助意識の向上を図るため、水辺の安全教室を年1回以上実施する

◆地域指導者会の組織の充実

地域においてリーダー研修を開催し、海洋センター事業の協力者としての新規会員を獲得する

4か年の活動報告(2019年度～2022年度)



「海洋性レクリエーション」及び「水辺の安全教室」の実施

◆海洋性レクリエーションの実施

2021年度 海洋センター実施率 **100%達成**

◆水辺の安全教室の実施

2019年度 過去最多体験者数 **22万人**

4か年の活動報告(2019年度～2022年度)



地域指導者会の組織の充実

◆リーダー資格養成者

1987年以降の最多人数更新

リーダー資格者 養成人数 **563人** (2019年度実績)

B&G指導員 **21,000人超** (CE,LE等含む)

4か年の活動報告(2019年度～2022年度)



その他

◆海洋性レクリエーション実施支援

SUP無料貸出 **477艇** 利用者人数 **4,649人**

BIG SUP配備 **260事業** 利用者人数**8,350人**

災害への支援

2019年8月 がんばろう岡山！海遊び・マリンスポーツ体験

参加者人数 **104人** (岡山県浅口市)

2020年8月 がんばろう千葉！海遊び・マリンスポーツ体験

参加者人数 **90人** (千葉県御宿町)



議案② 次期 ビジョン・基本方針・活動目標(案)

2023年度～2025年度 B&G全国指導者会 新たな方向性

B&G INSTRUCTOR'S
ZENSHIKAI

2023年度からの新たな方向性

1. 地域の特性を活かし、四季を通じた自然体験活動による郷土教育の推進

- 概要 従来の水辺の自然体験活動にとらわれず、陸上や山のフィールド、四季などの地域の特性を活かした自然体験活動を通して、子供たちが地域を知り、魅力を感じ、自分の住む地域を誇りに思い、“郷土愛”を育む教育活動として推進していく。
- 場所 自然フィールド（海、川、湖、陸、山など地域の特性を活かす）
- 対象 地域住民
- 期間 通年（地域の自然環境、四季などを考慮し、一年間を通して実施する）

プールを含めた海洋性レクリエーション活動

プール

水辺の自然フィールド

従来の“生きる力”
“水辺で命を守る力”に加え
“地域で生きる力”と
“世代を繋ぐ力”を育む

海洋性レクリエーション体験機会増加

地域の特性(自然環境、四季、指導人材など)を活かした教育活動

水辺の自然フィールド

山の自然フィールド

陸の自然フィールド

“郷土”に合わせた自然体験機会増加
(水辺を含む)

子供達に期待できる効果

地域学習 地域が好きになる(誇り)

地域に期待できる効果

地域の次世代 地域の活性化
育成 新たな郷土の発掘

2023年度～2025年度 B&G全国指導者会 新たな方向性

B&G INSTRUCTOR'S
ZENSHIKAI

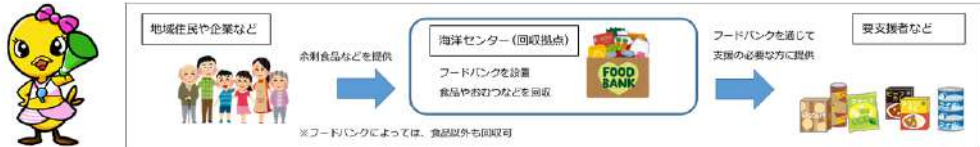
2023年度からの新たな方向性

2. 他団体と連携協力した食品ロス削減活動への協力

- いいことその1 家庭内の余剰食品ロスを減少させ、身近な場所で学習機会を提供することができる
- いいことその2 支援が必要な施設や団体に、集めた食品などを提供することで地域社会に貢献・参画することができる
- いいことその3 地域に貢献する海洋センター・クラブ、B&G指導員、地域指導者会をアピールすることができる

＜海洋センターを通じた食品ロスへの取り組みイメージ＞

地域の「社会福祉協議会」やフードバンク団体などと連携し、海洋センターの負担が少なく、「食品ロス削減活動」及び「支援を必要としている施設や団体」に、集めた食品などを提供し、地域に貢献することができます。



※フードバンクによっては、食品以外にも回収

記念總會2日目において、次の2海洋センターからの事例発表を行います。

- 兵庫県豊岡市竹野海洋センター 地域（社協）と連携した「食品ロス」への取組 ～フードバンク（食品回収ボックス）～
- 大分県由布市扶間海洋センター B&G塾 x フードロス ～既存事業を活用したSDGs事業～

2023年度～2025年度 B&G全国指導者会 ビジョン・基本方針・活動目標



ビジョン

未来を担う子供たちのために 地域にとどけよう 笑顔と元気

基本方針



1. 地域指導者会の充実と会員の資質向上

- ・高齢者をはじめ地域住民を対象とした「リーダー研修」の開催など、新規会員の獲得に努めるとともに、他の地域指導者会と連携協力し、指導者会活動と組織の充実を図る。
- ・ブロック別指導員研修会の参加、地域指導者会で研修会実施、普通救命講習への参加など、指導者の資質の向上と自己研鑽に努める。

2. 海洋センター・クラブを拠点とした地域の活性化

(1) 自然体験活動の実践

- ・子どもたちや地域住民への海洋性レクリエーションや地域の自然環境などの特性を生かした様々な自然体験活動を行うとともにインクルーシブな体験活動を実践していく。

(2) 次代を見据えた地域貢献活動の実践

- ・海洋ごみの削減や食品ロスの解消に向けた取り組み、地域の課題に貢献する活動を積極的に推進する。

3 活動の情報発信

- ・地域指導者会の活動情報を紙媒体やSNS等を活用して発信し、地域住民に周知を図る。

4 災害時等における相互支援

- ・自然災害等により海洋センター所在市町村が被災した際は、可能な範囲で被災地域の復興に対する応援・協力を行う。

2023年度～2025年度 B&G全国指導者会 新たな方向性



2023年度からの
新たな方向性

B&G全国指導者会の新たな方向性

～ 地域の発展に資する新たなチャレンジ ～

2023年度～2025年度の新たな方向性として、従来の活動にとらわれず、他団体などと連携して、地域の発展のために新たな貢献活動を展開する。



1. 地域の特性を活かし、四季を通じた自然体験活動による郷土教育の推進

⇒ 2023年度 ブロック別指導員研修会のテーマとする

各ブロックの先進事例を研修会の中で3センター程発表し、共有する

2. 他団体と連携協力した食品ロス削減活動への協力

全国指導者会活動目標とセンター評価

基本方針に基づく「継続活動（活動目標）」



2023年度 海洋センター評価で必須項目



海洋性レクリエーションの実施



海洋ごみの削減に向けた「啓発活動」及び「清掃活動」の実施



ブロック別指導員研修会への参加

基本方針に基づく「継続活動（活動目標）」



2023年度 海洋センター評価で必須項目



海洋性レクリエーションの実施

- ・カヌーやSUPなどのマリンスポーツの体験機会を提供
- ・マリンスポーツを安全に実施するため、背浮きなどの水辺の安全教育プログラムを実施し、自分の命は自分で守る意識を醸成する
- ・B&G指導員の強みを活かして、青少年の健全育成に取り組む

基本方針に基づく「継続活動（活動目標）」



2023年度 海洋センター評価で必須項目



海洋ごみの削減に向けた「啓発活動」及び「清掃活動」の実施

- ・「啓発活動」を通じて、海洋ごみ問題や環境について目を向けるきっかけ
- ・海洋センター周辺等の「清掃活動」を実施し、地域をきれいに
- ・「拾うこと」で「捨てないところ」を育む

基本方針に基づく「継続活動（活動目標）」



2023年度 海洋センター評価で必須項目



ブロック別指導員研修会への参加

- ・B&G指導員の自己研鑽及び資質向上が目的
- ・2023年度 ブロック別指導員研修会テーマ
～地域の特性を活かし、四季を通じた自然体験活動による郷土教育の推進～

指導員褒章・指導者会褒章

指導員褒賞  ゴールド 12名

<p> 道添 透</p> <p>北海道 小平町 B&G 海洋センター インストラクター (1997 年度)</p>		<p> 松新 俊典</p> <p>島根県 西ノ島町 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 14 期センター育成士)</p>	
<p> 森 良光</p> <p>宮城県 蔵王町 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 19 期センター育成士)</p>		<p> 竹内 浩子</p> <p>高知県 四万十町窪川 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 10 回 AQ)</p>	
<p> 和田 光彰</p> <p>群馬県 玉村町 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 8 回 AQ)</p>		<p> 江本 悦夫</p> <p>大分県 中津市耶馬溪 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 15 期センター育成士)</p>	
<p> 岩本 栄三郎</p> <p>石川県 七尾市 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 36 期センター育成士)</p>		<p> 竹之内 逸郎</p> <p>鹿児島県 長島町 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 8 期センター育成士)</p>	
<p> 久保 徹</p> <p>静岡県 掛川市 B&G 海洋センター インストラクター (1992 年度)</p>		<p> 小野澤 秀典</p> <p>香川県 B&G 高松海洋クラブ</p>	
<p> 大嶋 学</p> <p>兵庫県 丹波市山南 B&G 海洋センター センター・インストラクター (第 16 期センター育成士)</p>		<p> 河内 孝明</p> <p>福岡県 B&G 福岡ジュニアヨット 海洋クラブ</p>	

指導員褒賞



16名

氏名	ブロック	道府県	センター・クラブ名
野田 勉	北海道	北海道	砂川市B&G海洋センター
浅沼 勇	東北	山形県	舟形町B&G海洋センター
城内 勉	東北	岩手県	洋野町種市B&G海洋センター
菊池 薫	関東	茨城県	五霞町B&G海洋センター
前山 智	北陸	新潟県	新潟市味方B&G海洋センター
小嶋 ちづる	北陸	福井県	大野市B&G海洋センター
永井 祥也	中部	愛知県	豊川市小坂井B&G海洋センター
伏木 文秀	近畿	滋賀県	長浜市浅井B&G海洋センター
妹尾 茂樹	中国	岡山県	矢掛町B&G海洋センター
大越 利夫	中国	広島県	府中市B&G海洋センター
高橋 正光	四国	香川県	高松市国分寺B&G海洋センター
山田 利長	北九州	福岡県	みやま市瀬高B&G海洋センター
片野 由美子	南九州	鹿児島県	日置市東市来B&G海洋センター
横田 仁	関東	群馬県	B&G吉井海洋クラブ
植田 繁	中部	静岡県	B&G御前崎海洋クラブ
本田 龍朗	四国	愛媛県	B&G新居浜海洋クラブ

指導者会褒賞



3団体

組織名	ブロック	道府県	代表者
小平町B&G海洋センター指導者会	北海道	北海道	長田 雅史
弘前B&G海洋センター指導者会	東北	青森県	水上 知剛
B&G三木海洋クラブ指導者会	四国	香川県	植田 浩治

日本財団笹川会長 B&G 指導員褒賞

日本財団笹川会長 B&G 指導員褒賞とは

「B & G海洋性レクリエーション指導員」のうち指導員資格登録 10 年未満の若手指導員を対象に、海洋センター・海洋クラブの運営に携わり、特に顕著な功績があった者を褒賞し、若手指導員のモチベーションアップ、B&G 指導員の価値向上を図るものです。

最終エントリー者 44 名

No.	道府県	所属先	氏名	研修期	No.	道府県	所属先	氏名	研修期
1	北海道	砂川市	山越 博輝	CE2回	23	滋賀県	多賀町	高橋 良行	17回AD
2	北海道	大空町	長尾 美和	CE3回	24	滋賀県	高島市高島	工藤 達哉	CE2回
3	北海道	室蘭市	江良 幸雄	18回AD	25	兵庫県	新温泉町	塩川 零士	CE2回
4	北海道	小平町	馬場 健太	CE1回	26	岡山県	奈義町	芦田 孝弘	14回
5	北海道	東神楽町	吉田 裕哉	16回AD	27	島根県	雲南市	岩谷 麻美	CE1回
6	青森県	平川市	外川 雄一郎	17回AD	28	広島県	呉市蒲刈	鬼塚 一夢	CE3回
7	青森県	東北町	久保田 良教	CE1回	29	山口県	周防大島町	岡本 祐子	15回AD
8	宮城県	松島町	青木 崇	CE2回	30	山口県	長門市日置	杉本 礼央	CE2回
9	宮城県	蔵王町	我妻 秀樹	CE1回	31	香川県	三木町	江戸 里美	18回AD
10	福島県	田村市滝根	今野 翔太	CE3回	32	徳島県	美波町	蒲生 悠太	18回AQ
11	埼玉県	久喜市栗橋	佐藤 安里紗	17回AD	33	徳島県	阿南市	山村 拓	CE3回
12	栃木県	須塩原市塩原	西山 慶崇	CE1回	34	愛媛県	鬼北町広見	楠目 匠	14回AQ
13	群馬県	玉村町	清水 美伽	CE2回	35	愛媛県	愛南町	山下 恵	15回AD
14	千葉県	横芝光町横芝	市原 泰成	CE1回	36	福岡県	築上町築城	速水 雄多	17回AD
15	千葉県	いすみ	吉田 健人	CE3回	37	佐賀県	みやき町	中村 拓磨	16回AD
16	石川県	志賀町	西 紘希	17回AQ	38	大分県	中津市耶馬溪	羽立 友一	17回AD
17	福井県	大野市	飯田 史哉	CE3回	39	熊本県	長洲町	田上 大	17回AD
18	山梨県	甲斐市双葉	深澤 春生	CE1回	40	熊本県	玉名市岱明	御手洗 寿美	CE1回
19	岐阜県	八百津	甲斐川 裕司	CE2回	41	熊本県	菊池市旭志	菅 貴史	18回AD
20	岐阜県	可児市	小木 曾 司	CE3回	42	鹿児島県	長島町	小牛尾 勇介	CE3回
21	愛知県	新城市作手	渡邊 裕亮	CE3回	43	鹿児島県	天城町	中水 翔午	18回AD
22	滋賀県	野洲市	宮脇 裕也	13回AD	44	鹿児島県	与論町	行野 豊二	16回AD

基調講演

監督が怒ってはいけない理由

女子バレーボール元日本代表
益子 直美

研修講義

一般社団法人スポーツフォーキッズジャパン
桐蔭横浜大学大学院
渋谷 崇行

株式会社食の学び舎くるみ 代表取締役
中野 ヤスコ

事例発表

香川県小豆島町内海B&G海洋センター

酒井 喬史

兵庫県豊岡市竹野B&G海洋センター

柳田 洋輝

大分県由布市挾間B&G海洋センター

生野 祥希

第5回B&G全国指導者会総会

事例発表

香川県小豆郡

小豆島町内海B&G海洋センター

酒井 喬史

自己紹介

- ・酒井 喬史（サカイ タカフミ） 平成元年9月15日生
- ・京都生まれ京都市育ち。2年前に小豆島へ移住。
- ・第5回センター・インストラクター養成研修に参加（沖縄研修）
前期チーフリーダーを拝命
- ・趣味 SUP
- ・目標 体重を10kg落とすこと！



CHANGE FOR THE BLUE B&C
海の未来を変える挑戦

小豆島紹介

- ・瀬戸内海にある小さな島。牛の形に似ている!?
- ・町花、町木はともにオリーブ
- ・地中海と似た温暖な気候
- ・特産品はオリーブ、そうめん、醤油、佃煮など

海と山に恵まれている

小豆島町は2年連続、中四国で唯一、2021、2022年度版の「世界の持続可能な観光地100選」に選出されました。

これは、国際認証機関であるオランダのグリーン・ディスティネーションズが、持続可能な観光地づくりに努力している地域を選出しているものです。



参加人数4,000人!?

B&G海ごみゼロフェスティバル in 小豆島 ～未来に海を残すために今できることを～



①事業発案

CHANGE FOR THE B&C
海の未来を変える挑戦

分散開催か・・・よし!
それなら、海ごみウィーク
期間全部開催しちゃおう!



いいですね!
それなら、色々な人が参加
できそうですね!!



②打合せと準備

CHANGE FOR THE BLUE B&C
海の未来を変える挑戦

・開催期間は？

※

⇒春の海ごみゼロウィークに合わせて開催！

※参考：5月30日（ごみゼロの日）、6月5日（環境の日）、6月8日（世界海洋デー）を含む、令和4年5月28日（土）～6月12日（日）期間

・各団体への募集は？

⇒学校など他官公庁を酒井・民間企業の
他ボランティア団体などを佐倉さんが紹介

・集まったゴミはどうするのか？

⇒内海B&G海洋センターと池田海洋クラブで集荷場を作る

・回収できないゴミはどうするのか？

⇒小豆島MAPを作成し、場所を教えてもらう

・一般の方の参加は？

⇒町広報・HP・SNSで周知

小豆島広報誌

小豆島ホームページ

B&G海ごみゼロフェスティバル in 小豆島

～未来に海を残すために今できることを～

海を守るために、身近なところのごみ拾いからはじめてみませんか？

実施期間 5月28日(日)～6月12日(日)

対象 小豆島内にお住まいの方どなたでも

募集定員 100名

実施場所 近隣の海や川等の水辺やその周辺

※海洋ごみの約8割は町中のごみと混ざっており、町中の清掃活動も対象となります。

参加費 無料

配布物 軍手・トンブ(数量限定)・ごみ袋・分別マニュアル・リーフレット・記念品

募集期間 5月6日(日)から5月20日(水)まで

申し込み・問い合わせ先

内海B&G海洋センター ☎82-5171

※危険なごみ(注射器・鋭利なガラス・中身の不明な液体等)は無理して拾わないようお願いいたします。

※回収したごみは、燃えるごみ・燃えないごみを分別の上、小豆島ふるさと村、または内海B&G海洋センターへ搬入をお願いします。



地域おこし協力隊活動報告

観光振興コーディネーター
サステナビリティコーディネーター 鈴木 綾乃

スペインから小豆島に来て早一年が過ぎました。我が家では週末になると島内を散策する習慣があります。

毎回、色々な出会いや発見があり、豊かな自然や絶景に囲まれた小豆島は本当に魅力的だと思います。

島とスペインの生活の違いについて家族でよく話しますが、島に来て一番驚いたのがごみ事情です。私達が住んでいたバルセロナでは、リサイクル・ごみゼロの意識は高く、子供でも分かるようにごみ箱が色分けされていたり、地域にリサイクルセンターがあったりとごみを出しやすい仕組みがありました。

現在、私の活動の軸である持続可能な観光(観光版SDGs)は、ごみをはじめとした環境問題と大きく関係しています。未来も美しい小豆島であるために、自分の経験を生かしながら、少しでも地域に貢献できたらと考えています。



「B&G海ごみゼロフェスティバル in 小豆島」

更新日：2022年04月14日



未来に海を残すために今できることを！

5月30日(ごみゼロの日)から6月6日(環境の日)前後は全国一斉清掃活動期間となっています。

身近なところのごみ拾いからはじめてみませんか？

開催内容

実施期間

令和4年5月28日(土曜日)から6月12日(日曜日)

対象

小豆島内にお住まいの方どなたでも

くらしのナビゲーション

Living scene



妊娠・出産・子育て >



結婚・離婚 >



福祉・介護 >



お休み >



引っ越し・すまいる >



相談 >



住民票・証明 >



保険・年金 >

～グローバルな風は小豆島から～

地域おこし協力隊の鈴木綾乃さんが、

また島島県上勝町にはごみのない社会を目指した「ゼロウェイスト」を目指し、地元企業が



海ごみゼロフェスティバル in 小豆島 実施マニュアル

このたびは「海ごみゼロフェスティバル in 小豆島」に参加いただきありがとうございます。海や海岸その周辺の清掃活動で小豆島のキレイな海をみんなで守りましょう！
また、海に流れ着くごみの8割は街中のごみと言われ、街に捨てられたごみは雨、風とともに排水溝へと流れ、川をつたいやがて海へと流れつくため、街中の清掃活動も「海ごみゼロ」活動へとつながります。



青色ごみ袋



料理くずや食べかす

燃えるごみ



弁当・惣菜・カップ類などの食品容器



紙コップ・内側が白以外の紙パック

資源ごみ



ペットボトル



発泡スチロール製の食品トレイ

※本来は資源ごみですが「海ごみゼロ」で集める破損・汚れているものは燃えるごみになります。

桃色ごみ袋

燃えないごみ



プラスチック類



ガラス食器などのガラスくず



空きビン類



空きカン類

小豆島町は、中四国で唯一、2021年版の「世界の持続可能な観光地100選」に選出されました。

これは、国際認証機関であるオランダのグリーン・ディスティネーションズが、持続可能な観光地づくりに努力している地域を毎年選出しているものです。

皆さんが参加する今回の行事も、持続可能な観光地づくりの一環であり、SDGs達成にもつながります。

注意事項

- 配布した軍手やトングを使い各自ケガや事故には十分お気を付けてください。
- 危険なごみ（注射器・鋭利なガラス・中身の不明な液体等）は無理して拾わないようお願いいたします。また上記以外のごみ（タイヤ、漁網、電子機器等）に関しても拾わずに裏面の小豆島MAPに場所・ごみの種類を記入してください。
- 回収したごみは集約しますので、燃えるごみ（青色）・燃えないごみ（桃色）を分別のうえ、イベント実施期間中（5月28日～6月12日）に小豆島ふるさと村または、小豆島町内海B&G海洋センターへ搬入をお願いします。

小豆島 MAP

「海ごみゼロフェスティバル in 小豆島」で拾えなかったごみ（タイヤ、漁網、電子機器等）がありましたらMAPに位置図をご記入ください。

ごみの種類や特徴をご記入ください。

また、活動の感想やご意見等ございましたら、ご記入ください。

お問い合わせ先

小豆島ふるさと村 担当：佐倉
TEL 090-2898-0661

内海B&G海洋センター 担当：酒井
TEL (0879) 82-5171

小豆島町教育委員会生涯学習課
担当：山本 TEL (0879) 82-7015
メール:olive0314@town.shodoshima.lg.jp

③事業の成果

CHANGE FOR THE BLUE B&C
海の未来を変える挑戦

参加者:延べ人数で 4,003名

小豆島島内の全ての小学校(5校)・中学校(2校)・高等学校(1校)
島内の企業、各種団体(官公庁)など 70 団体
島内の海洋センター・クラブ 3団体



回収したゴミの総量：2,105kg

可燃ごみ	1,262kg	(1,560袋)
不燃ごみ	546kg	(324袋)
ビン類	93kg	
空き缶	57kg	
鉄くず	87kg	
漁具	約60kg	



CHANGE FOR THE BLUE
海の未来を変える挑戦

小学生 男子

ごみの種類は、あめのごみ、プラスチックのごみがありました。
ぼくはこの活動をして、ごみがすこしでも減ったと思います。
これからもごみを捨てないように心がけます。

一般参加 女性

海岸沿いに、たばこの吸いがらがたくさん落ちていました。そのようなごみが少なくなればいいなと思いました。観光地だからこそのごみ？(飲みかけのペットボトル、パンフレット)なども減ればいいなと思いました。

小学生 女子

おかしのごみがたくさんありました。ごみを拾うことで海をきれいにできたらいいなと思いました。

小豆島町役場で展示



海ごみをアートに!

小豆島 親子連れら「生き物」制作



海ごみを木枠に貼り付け、海のをイメージした作品を作る子どもたち。小豆島町室生、小豆島、2017年。

40人、軽トラック5台分収集

小豆島町室生の小豆島ふた。

るさと村で、島内の親子連れらが海ごみでアート作品を制作するイベントがあった。参加者は海岸に流れ着いた電化製品の部品やカキの養殖器具、ガラス片などを材料に「海の生き物」などを作り、「ごみのない美しい海を守ることを誓い合った。

アート作品作りは、同村

の開村30周年企画の一環。5日にあり、土庄、小豆島阿町の児童や生徒とその保護者ら計約40人が参加し

午前中、参加者らは同村

周辺の海岸で空き缶やペットボトル、流木など軽トラック5台分のごみを収集。

午後はB&G池田海洋クラブの佐倉亮さん(44)と土庄町のアート作家なかがわゆきこさん(50)の指導の下、作品作りに挑戦した。

子どもたちは海で拾った

プラスチック片やガラス片などの色や形を確認しながら、どんな生き物が作れるかをイメージ。構想が固ま



CHAN
海の未来を変える

本

事業成功の要因

- ・コロナ禍で事業の縮小や中止といった判断が多い中、実現に向けてやり方を模索し、今までと違い決まった日にやるのではなく期間を設けてそれぞれの自主性やできる時間で事業を実施したことで逆に参加者が増えるといった結果につなげることができました。
- ・リーダー養成研修やマリンスポーツ大会等でも海ごみの回収を実施しており、町民や官公庁にも認知度が高い活動となっている。日頃の活動の認知度により島民の関心が高かったものと考えます。

④事例を通して伝えたいこと (さいごに)

CHANGE FOR THE FUTURE B&C
海の未来を変える挑戦

- ・今回の海ごみフェスは、コロナ禍だからこそ、
方法を模索し大人数の参加となった



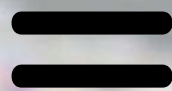
やり方や考え方、アイデア次第で上手くいく!

- ・各団体のSDGsのために何かやらなくては
といった思いと、B&G海ごみゼロが上手くマッチ



B&Gの活動が社会のお役立ちに繋がる!

自分の身近な一人一人
の海ごみゼロの実施



日本の
「青い海（ブルーシー）と
緑の大地（グリーンランド）」
を守り、B&Gを
将来世代に繋げる活動となる！



FOR THE BLUE

水



ご清聴ありがとうございました。



地域（社協）と連携した「食品ロス」への取組 ～フードバンク（食品回収ボックス）～

兵庫県豊岡市 竹野B&G海洋センター

柳田 洋輝

自己紹介・自治体紹介

城崎温泉



コウノトリ



山陰海岸ジオパーク



海洋センター



センターより



本日の発表内容



① **フードバンク（ボックス）の設置**

② **地域（社協）事業との連携**

③ **工夫したこと**

④ **次の一手**

⑤ **今後の展望**

① フードバンク (ボックス) の設置

「食のネットワーク」



- ・ 子どもの食堂
- ・ フードパントリー

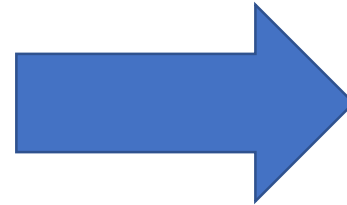
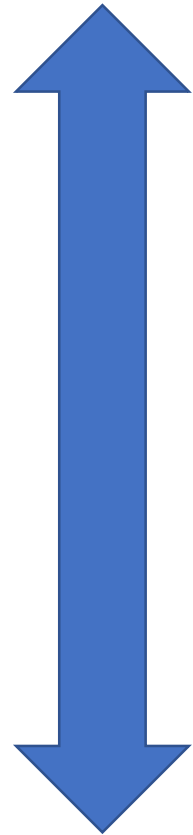
フードバンク (ボックス)



海洋センター
事務所入り口横

②地域（社協）事業との連携

「食品ロス」



食料品を必要としておられる人

- ・ フードパントリー
- ・ 地域（社協）事業



「緊急食糧支援事業（食料提供）」

③工夫したこと

広報（啓発） ☆センター（フードボックス）⇒社協

新たな試み「食品ロス」への取組

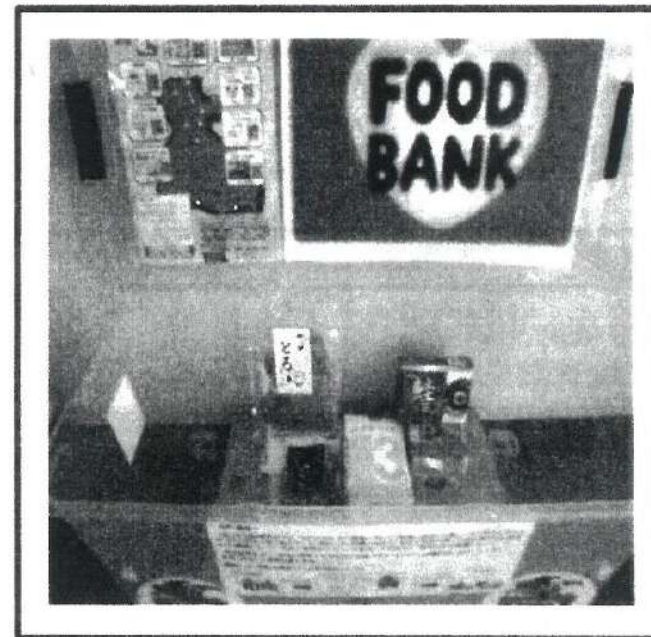
（竹野B&G海洋センター：事務室入り口横に設置）

目的 ・ 概要

日本では食べ残しや賞味期限切れ食品の廃棄によって、年間600万トンの食品ロスが発生し深刻な社会問題になっています。そこでB&Gでは、「次代を見据えた地域貢献活動の実践」を掲げ「フードバンク」を設置します。フードバンクは家庭内の余剰食品を集め、集めた食品を支援が必要な方へ提供する取組です。竹野B&Gでも下記の食品の受付を行っております。一緒に「食品ロス」に取り組みましょう。

受付物

- ・未開封
- ・常温保存が可能な食品
例（レトルト食品・缶詰・インスタント食品等）



☆集めさせて頂いた食品は豊岡市社会福祉協議会を通じて必要とされる方へ配布していきます。

- ・未開封
- ・常温保存が可能

例：レトルト食品、缶詰、インスタント食品

④ 次の一手

【集まっている食料品】

- ・レトルトご飯
- ・インスタント食品 など

【課題】

- ・ 収集量

(事業として不足)

- ・ 認知度

(まだまだ低い)



広報（啓発）強化

10月
(秋号)



1月
(冬号)

「FOOD BANK(フードバンク)」情報(お礼)

竹野B&G海洋センターの新しい取組として、「FOOD BANK(フードバンク)」を継続しています。毎月の「社会福祉協議会だより(NIKKO)」に掲載の通り、竹野町社会福祉協議会に届けさせていいただいています。海洋センター事務室入り口横に設置しています。今後よろしくお願ひします。



⑤ 今後の展望

- ① 提供先（社協）との連携を密に
- ② あせらず、地道に
- ③ アイディアや実践の共有
- ④ 定期利用団体への積極的な声かけ

☆ みなさんも「これなら出来そう！」
「出来る！！」

ご清聴ありがとうございました。

令和4年度由布市夏休みB・G塾

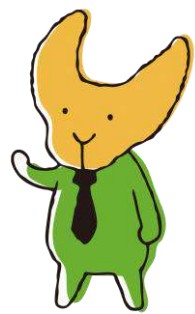
B・G塾 × フードロス ～既存事業を活用したSDGs事業～



大分県由布市教育委員会スポーツ振興課

由布市挾間B&G海洋センター 生野 祥希

自治体紹介（大分県由布市）



マスコットキャラクター
ゆーふー



湯布院町



挾間町



庄内町

総面積	319.32km ²
人口	33,617人
世帯数	15,740戸
特産物	庄内梨 など
名所	由布院温泉 など

BG塾について

実施日 令和4年8月1日（月）～5日（金）

参加者 市内小学4年生～6年生（28名）

テーマ 「SDGsを学ぼう！」

- 内 容
- ・ 夏休みの宿題
 - ・ SUP体験
 - ・ モルック
 - ・ スケボー教室
 - ・ 防災学習
 - ・ 工場見学
 - ・ 介護ロボット体験
 - ・ 自然体験学習
 - ・ 人権学習
 - ・ 水辺の安全教室
 - ・ フードドライブ
 - ・ AED講習
 - ・ 郷土料理づくり
 - ・ 浄水場見学
 - ・ 車いすマラソン選手交流 など



フードドライブ実施内容

期 間 約1ヶ月

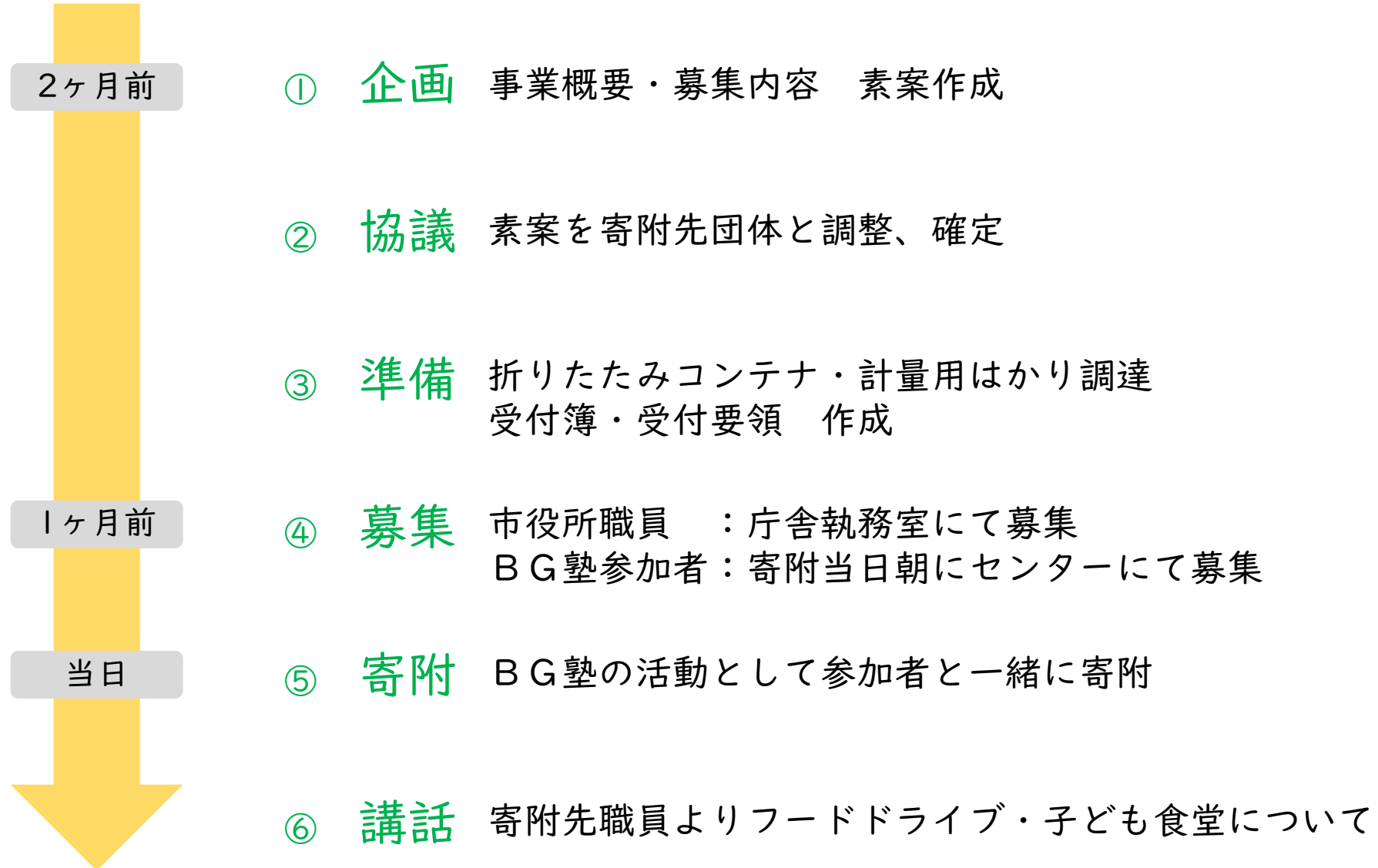
範 囲 市役所職員及びBG塾参加者

内 容 缶詰・レトルト食品・お菓子・マスク等

- 条 件
- ・賞味期限が2ヶ月以上先
 - ・未開封かつ外装が破損していない
 - ・常温保存が可能
 - ・製品説明を日本語で表記
 - ・生鮮食品やアルコール類以外



実施までの流れ



不安だったこと

相談及び寄附先の把握



福祉関連部署に相談し、社会福祉協議会へ

寄附が集まるか
集まりすぎないか



市職員及びB G塾参加者を対象にして調整

約40kgの成果

カレールー・缶詰・サランラップ など

なにを募集すべきか



寄附先団体と協議

受け入れ○ 賞味期限が2ヶ月以上先で未開封の食品等
(特にカレールー・お菓子)

× 生鮮食品・アルコール類・お米など

実施後の反応



参加者

余っていたものでも人の役に
立てることができて良かった

寄附した物の活用方法や現状についてを
体系的に学べるところが良いと思う



寄附先

夏休みは学校給食がなく食べ物に
困る子どもが増えるためありがたい



保護者

今後の取り組み

B&Gを拠点とした各種事業の展開



事業拠点：狭間B&G海洋センター



本年度のBG塾の様子



企業等との連携



BG塾を活用したSDGs事業



市民対象フードドライブ

その他資料



子どもたちに寄り添った支援をあなたのまちで

「子ども第三の居場所」とは

子どもたちの孤立しやすい放課後の時間に、家庭や学校以外の場で、信頼できる大人や友達と安心して過ごし、

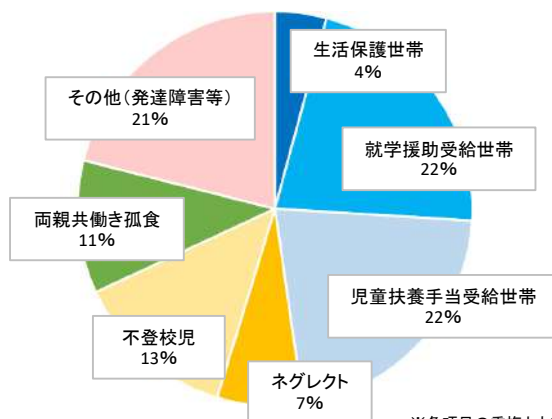
- ① 自己肯定感
- ② 人や社会と関わる力
- ③ 生活習慣
- ④ 学習習慣

など、将来の自立に向けて「生き抜く力」を育む場所です。



「生き抜く力」の育成

● 運営中の19拠点の利用者形態



※各項目の重複カウントなし

生き抜く力を育むための5つの機会を提供

1 安心・安全な場所



2 食事提供 (学習・生活支援モデルは任意)



3 基本的な生活習慣を整える



4 学習習慣を定着させる



5 「子ども第三の居場所」だからこそできる体験活動

海洋センター・クラブでの体験活動を子どもたちは楽しみにしています！



支援内容

	実施頻度	児童数	運営費	開設費
常設ケアモデル	週5日～	定員20名～ 一日利用特性に応じます	月額 120万円以下	5000万円以下
学習・生活支援モデル	週3日～	定員20名 1日7名～	月額 80万円以下	5000万円以下

実施体制

- ①自治体直営 ②自治体からの運営委託 ③自治体の補助事業

※2024年度実施・募集については、学習・生活支援モデルが新たなモデルとなります。

募集対象等

1. 対象 市町村および特別区（海洋センター評価がA以上の自治体）

2. 対象となる事業

①「子ども第三の居場所」開設事業

施設の新築、改築、増築および施設に設置する家電・什器等の設置など

②「子ども第三の居場所」運営事業

居場所の運営

3. 対象となる事業期間

助成決定後～2024年3月31日

※最長3年間の運営助成を行い、4年目以降は自治体主体もしくは外部団体への補助事業として継続運営

※工事等で期間内に事業が終了しない場合、事前にご相談ください。

4. 申請期間（設置意思確認書提出期間）

～2023年3月31日

※提出が間に合わない場合、事前にご相談ください。



各拠点の状況

●拠点数:32自治体36拠点（運営中19拠点・準備中17拠点）

●運営形態（運営中19拠点）

単独型9カ所、放課後児童クラブ連携型7カ所、子育て支援施設（子ども家庭総合支援拠点等）連携型3カ所

	都道府県	市町村	オープン		都道府県	市町村	オープン
1	北海道	東神楽町①	2019年6月	19	京都府	南丹市	2020年10月
2		東神楽町②	2019年8月	20	奈良県	三郷町	準備中
3		積丹町	2020年4月	21	兵庫県	明石市	2021年9月
4		北広島市	準備中	22		養父市	準備中
5		古平町	準備中	23	島根県	雲南市	2019年4月
6	福島県	塙町	準備中	24	岡山県	奈義町	2020年10月
7	茨城県	笠間市	2019年4月	25		備前市①	2020年4月
8	栃木県	芳賀町	2022年4月	26		備前市②	準備中
9	埼玉県	嵐山町	2019年4月	27		美作市①	2020年4月
10		吉見町	準備中	28		美作市②	2022年5月
11	神奈川県	湯河原町	準備中	29		美作市③	2022年5月
12	新潟県	胎内市	2019年4月	30	広島県	尾道市	準備中
13		燕市	2020年4月	31	徳島県	阿南市	準備中
14	石川県	穴水町	2019年7月	32	佐賀県	みやき町	準備中
15	長野県	大町市	2019年6月	33	大分県	杵築市	2019年4月
16		上松町	準備中	34	鹿児島県	南さつま市	準備中
17		下條村	準備中	35		長島町	準備中
18	滋賀県	高島市	準備中	36	沖縄県	中城村	準備中

居場所に通うことで子どもに起きた変化

居場所なら安心できると実感する子ども：**7割以上**

居場所ならチャレンジできると実感する子ども：**7割以上**

安心、援助希求等心理的な状態が好転した子ども：**7割以上**

生活習慣そのものが改善した子ども：**6割以上**

学習習慣が改善した子ども：**7割以上**

楽しかった活動
がたくさんあり
すぎて1番を決め
られない。(小3)

進んで宿題を
したいと思う
ようになった。
(小5)

表情から自信が満
ち溢れるようにな
り、明るくなった。
(拠点スタッフ)

娘も私も関わる方
が増えたことで、心
の支えができた。
(小5保護者)

問合せ・申込先

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル9階

mail:kikaku@bgf.or.jp

電話：03-6402-5311（担当：企画課 桐ヶ谷・竹谷・牧岡・付）



最終年度

申請受付中!

全国60自治体で実施中!

製作と活用事業

募集期間

2022.10.3(月)

~2023.3.31(金)

事業内容

2023年度：偉人マンガの製作
2024年度～：偉人マンガの活用

助成額

上限300万円

お問合せ

B&G財団
企画部企画課

TEL：03-6402-5311

担当：竹谷、根本、牧岡、付



マンガふるさとへの偉人

三浦環と

三浦政太郎

世界中を羽ばたいた
日本人オペラ歌手と、
彼女を愛した医学者。

世界を羽ばたいた
日本人オペラ歌手と、
彼女を愛した医学者。

原作 まるおけい

作画 野口 芽衣
伊咲 ウタ

ふるさとの偉人
三浦梅園

製作・発行

ふるさとによる ふるさとのための ふるさとの偉人マンガ製作

マンガ製作活用検討委員会

委員会を設立。

有識者、学校関係者、偉人の親族など地域の方々で構成されています。



学校授業での活用を見据えてセリフの言い回しなど細部までこだわります。

シナリオ、ネーム作成

ふるさとにゆかりのある漫画家が執筆。

プロアマ問いません。

高校生や大学生が執筆に携わっている自治体もあります。



完成



偉人マンガの完成。

学校授業での活用（必須）のほか、学校や地域図書館への配架、企画展の開催など自治体の特色を活かした活用を行います。

活用

地域の特色を活かした偉人マンガ活用

学校授業での活用

郷土愛の醸成やキャリア教育等の観点から、学校授業での偉人マンガ活用を必須としています。総合的な学習の時間、道徳教育、教科教育などで活用されているほか、製作に携わった委員による出前授業も行われています。



企画展等での活用



「マンガができるまで」をテーマに製作手順・様子を展示



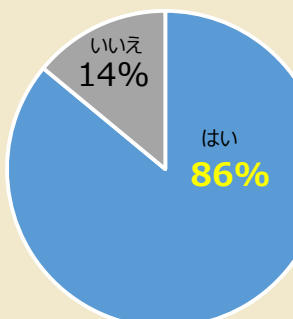
偉人マンガを読んで描いた自画像を表彰する式典



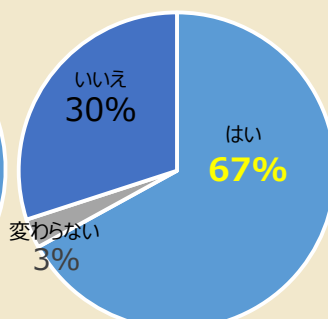
製作関係者等によるパネルディスカッション

成果

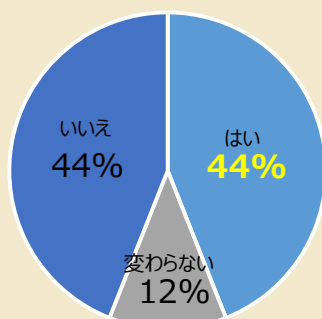
子供たちの変化が見えてきています



マンガを読んで自分たちの町が好きになりましたか



かつて偉人が活躍した自分たちの町を誇りに思いましたか



自分の将来の夢や目標について考えるきっかけになりましたか

2021
年度

	都道府県	自治体	偉人
1	北海道	大空町	根岸 錦蔵
2	宮城県	蔵王町	北原尾に生きる人々（高橋進太郎、村山格一郎等）
3	秋田県	由利本荘市	小松 耕輔
4	茨城県	笠間市	田中 友三郎
5	栃木県	下野市	下毛野古麻呂
6	埼玉県	久喜市	中島 撫山
7	埼玉県	嵐山町	畠山 重忠
8	新潟県	佐渡市	有田 八郎
9	長野県	生坂村	加藤 正治
10	岐阜県	中津川市	前田 青邨
11	静岡県	牧之原市	田沼 意次
12	静岡県	袋井市	三浦 環三浦 政太郎
13	愛知県	豊川市	曾田 梅太郎
14	滋賀県	長浜市	雨森 芳洲
15	兵庫県	新温泉町	加藤 文太郎
16	鳥取県	北栄町	豊田太蔵
17	島根県	美郷町	中原芳煙
18	岡山県	備前市	熊沢 蕃山
19	岡山県	和気町	和気 清麻呂・広虫
20	岡山県	笠岡市	茅原基治
21	広島県	北広島町	霞光（本名：石村 日郎）
22	愛媛県	鬼北町	井谷 正命（いたに まさみち）、井谷 正吉（いたに まさよし）
23	高知県	津野町	片岡 信子
24	福岡県	築上町	築城郡筋奉行延塚卯右衛門
25	佐賀県	鹿島市	田澤 義鋪
26	佐賀県	みやき町	古賀 稔彦
27	熊本県	菊池市	菊池 武光
28	熊本県	湯前町	那須 良輔
29	大分県	国東市	三浦 梅園
30	鹿児島県	長島町	飯尾 裕幸

2022
年度

	都道府県	自治体	偉人
1	青森県	弘前市	陸 羯南
2	岩手県	花巻市	佐藤 昌介
3	宮城県	川崎町	支倉 常長
4	秋田県	男鹿市	天野 芳太郎
5	山形県	尾花沢市	高宮 常太郎
6	埼玉県	松伏町	山崎 峯次郎
7	埼玉県	吉見町	源 範頼
8	新潟県	胎内市	板額 御前
9	新潟県	燕市	鈴木 文臺
10	新潟県	新潟市	田沢 実入
11	富山県	砺波市	利波臣志留志
12	富山県	南砺市	松村 謙三
13	岐阜県	恵那市	山本 芳翠
14	岐阜県	富加町	齊藤 新五
15	愛知県	西尾市	岩瀬 弥助
16	三重県	亀山市	ヤマトタケル、オトタチバナヒメ
17	三重県	菰野町	八重姫
18	京都府	南丹市	井上 堰水
19	兵庫県	猪名川町	加茂 守
20	兵庫県	南あわじ市	鶴澤 友路
21	鳥取県	伯耆町	辻 晋堂
22	岡山県	赤磐市	永瀬 清子
23	岡山県	井原市	平櫛 田中
24	岡山県	津山市	箕作 阮甫
25	岡山県	奈義町	井戸 泰
26	徳島県	阿南市	森甚五兵衛
27	福岡県	みやこ町	吉田 健作、吉田 増蔵
28	熊本県	南関町	北原 白秋
29	鹿児島県	南さつま市	黒瀬杜氏三人衆（片平一、黒瀬常吉、黒瀬巳之助、阿多杜氏）

2022年度 センター・インストラクター養成研修報告

センター・インストラクター養成研修とは、海洋性レクリエーションなどの自然体験活動、健康づくり、地域コミュニティの活性化や安全・安心な施設管理・運営など、地域住民に対して価値ある事業・活動環境を提供する役割を担う指導員を養成する長期合宿型の研修です。

第5回 センター・インストラクター養成研修 in 沖縄県本部町

研修期間:2022年6月6日～7月8日

新たに防災事業として「重機研修」を実施。これからの指導者に必要な防災スキルを習得！
34名が修了し、地域に戻り、身につけた知識と技術を活用し、各種事業に取り組んでいます。



第6回 センター・インストラクター養成研修 in 鹿児島県天城町

初開催

研修期間:2022年9月20日～10月22日

養成研修初開催となった天城町で、38名が修了！
新たにオープンウォータースイムやポロカヌー、レクリエーション実習、施設管理講習のカリキュラムを行い、実践的な研修内容となりました！



2023年度 センター・インストラクター養成研修のご案内

研修期間:沖縄県本部町 6月4日～7月6日

鹿児島県天城町 8月30日～10月1日

募集要項:3月中にコンパスにて全海洋センターへ発信予定

申込期間:4月7日(金)～4月18日(火)

※ 天城町での養成研修では、ヨット実技は実施しません。

※ 参加希望多数の場合は、指導員未配置センターなどの優先順位をつけて対応いたしますので、参加できない場合もあります。

ビジョン (2023年度～2025年度)

未来を担う子どもたちのために 地域にとどけよう 笑顔と元気

基本方針 (2023年度～2025年度)

1. 地域指導者会の充実と会員の資質向上

- ・高齢者をはじめ地域住民を対象とした「リーダー研修」の開催など、新規会員の獲得に努めるとともに、他の地域指導者会と連携協力し、指導者会活動と組織の充実を図る。
- ・ブロック別指導員研修会の参加、地域指導者会で研修会実施、普通救命講習への参加など、指導者の資質の向上と自己研鑽に努める。

2. 海洋センター・クラブを拠点とした地域の活性化

(1)自然体験活動の実践

- ・子どもたちや地域住民への海洋性レクリエーションや地域の自然環境などの特性を生かした様々な自然体験 活動を行うとともにインクルーシブな体験活動を実践していく。

(2)次代を見据えた地域貢献活動の実践

- ・海洋ごみの削減や食品ロスの解消に向けた取り組み、地域の課題に貢献する活動を積極的に推進する。

3 活動の情報発信

- ・地域指導者会の活動情報を紙媒体やSNS等を活用して発信し、地域住民に周知を図る。

4 災害時等における相互支援

- ・自然災害等により海洋センター所在市町村が被災した際は、可能な範囲で被災地域の復興に対する応援・協力をを行う。

2023年度 活動目標

「地域の発展に資する新たなチャレンジ」

従来の活動にとらわれず、他団体などと連携して、地域の発展のために新たな貢献活動を展開する。

1. 地域の特性を活かし、四季を通じた自然体験活動による郷土教育の推進

2. 他団体と連携協力した食品ロス削減活動への協力

基本方針に基づく「継続活動」

1. 海洋性レクリエーションの実施

- ・「海洋性レクリエーション体験」及び「水辺の安全教育実技プログラム」の年1回以上実施

2. 海洋ごみの削減に向けた「啓発活動」及び「清掃活動」の実施

- ・事業参加者への「啓発活動」及び 海洋センター周辺等での「清掃活動」の年1回以上実施

3. ブロック別指導員研修会への参加

- ・ブロック別指導員研修会への年1回以上参加